



「THE 世界大学ランキング2025」で、 2年連続 国内私立大学3位を獲得



2024年10月9日、イギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (Times Higher Education) が実施している「THE 世界大学ランキング2025 (World University Rankings 2025)」が発表されました。

今回は、115の国・地域の2,092校を対象に、「教育」「研究環境」「研究の質」「産業への貢献度」「国際性」の5分野17指標で各大学のスコアが算出されています。日本からは119校がランクインしており、本学は、801-1000位にランクインしました。

私立大学で1000位までにランクインした大学は本学を含め4校だけであり、本学は2年連続で国内私立大学3位となりました。本学は特に「教育」「研究の質」「産業界」の項目で高く評価されており



World University Rankings 2025

THE 世界大学ランキング 2025 (日本の私立大学の結果)

順位	大学名	分類
601-800 位	順天堂大学	私立大学
	慶應義塾大学	私立大学
801-1000 位	東京医科大学	私立大学
	早稲田大学	私立大学

※THE の発表を元に 1000 位までの私立大学の結果を東京医科大学が作成

■ THE 世界大学ランキング2025 (日本) は[こちら>>](#)

■ 上位選出の理由は[こちら>>](#)



学長コラム

宮澤学長からのひとことを「学長コラム」として定期的に発信！

Vol.1 「グループ学習のすゝめ」

医学科6年生のこの時期は、卒業試験、医師国家試験に向けての追い込みの時期である。本学では学生達からの要望に沿って「勉強部屋」と称するグループ学習用の小部屋を6年生全員に用意している。以前は、夜遅くまで学生達が集まって勉強に励んでいるのが日常の光景であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機に、今ではほとんど空室の状態である。多くの6年生が自室に引きこもり配信動画教材で勉強しているようである。勿論、このような自習形態が否定されるものではないが、かつては、学生達自身が「グループ学習が国試合格のカギ」と語っていたことを考えると隔世の感がある。互いに励まし合い、勉強のできる学生が成績不振にあえいでいる学友の面倒をみるといった、長年培われた学内風土が失われつつあるのは残念である。

今年の6年生の中間成績では「臨床問題」の成績が大きく落ち込んでおり、大学としても危機感を抱いている。「臨床問題」へのアプローチ法、いわゆる臨床推論は、グループ内の成績上位者が学友に教

えることや、メンバー間の相互の問題解説を通して、これまで学生達は身につけてきたのではと私は考える。この成績不振を打開するには、症例問題の一行目の「主訴」から、鑑別対象の疾患を想起し、その後、続く問題情報から確定診断へと絞り込むプロセスを、焦らず丁寧に、出来ることならグループ学習で行っていくことが効果的である。国試で問われているのは「適確に診断し、治療指針を立てられるか」という、臨床現場で求められる能力そのものであることを意識して勉強に臨んでほしい。

医学科6年生そして看護学科4年生の皆さんは卒業まであと僅かだが、感染症対策と体調管理には十分に配慮して、グループ学習も一部取り入れて、助け合いの精神でどうか最後の難関を乗り越えてもらいたい。皆さんの目標達成のために、大学として協力できることは何でもしたいと考えている。